蘭湯

〔時慶卿記〕慶長八年五月五日、神拜、粽ヲ供、先早々菖蒲湯浴、

〔拾芥抄上本歳時〕五月五日、○略中是日採蘭、以水煮之、爲沐浴、令人辟除甲兵、攘却惡氣、大戴禮

〔月令廣義十五月〕初五日　浴蘭湯楚詞浴蘭湯兮沐芳華、大戴禮、五日蓄蘭爲沐浴、本草云、蘭乃澤蘭香草、非今之勾蘭花也、

〔長秋記〕大治四年五月五日壬午、裏書、○略中御湯被入蘭、

〔建内記〕文安元年五月五日甲寅、蒲節幸甚々々、沐浴蘭湯、壽酒祝著如例、

〔東都歳事記二五月〕五日　端午御祝儀、○略中貴賤佳節を祝す、（中略）小兒、菖蒲打の戯れをなす、

菖蒲打

〔嬉遊笑覽六下兒戯〕洛陽集に、割ばさみいづれあやめぞ蓬ぞと、行正中古風俗志に、享保のころまでは、所々の廣小路へ童集り、菖蒲にて大きなるふとき三ッ打の繩をこしらへ、或は長竿等を持出、往來の子供へ玄やがめ〳〵といひて、下座をさせ、もし下座をせざれば打かゝりなどして、使につかはしたるは、小裾布など重箱をこはされはう〳〵逃かへりし事などありしが、今は絶てなしといへり、されど予○喜多村信節が幼き頃までも、童共人家の簷なるあやめを、竹のわりばさみにて取あつめ、三ッ打に組で持あるき、他所の小供を見れば、此繩にて地を打、草覆を脱で下座せよと云ふ、されども下座する童もなく、又絶てさするに及ばず、唯かくして遊ぶことなりき、今も此戯する處もあるべし、

〔守貞漫稿二十七〕或曰、端午ノ印地打止テ印地切（インジユキトナリ）（リト訓ズ）、正保慶安ノ頃ハ、此日專ラ童ノ挑爭フ印地切モ停テ菖蒲打トナル、○略註後廢テ唯吉原ノ禿ノミ行之、衆禿二隊トナリ、號テ江戸町方京町方ト云、待合ノ辻ニ行之ヨト、上ニ云ルガ如シ、是寛延ノ書ニ載タリ、何ノ時ニカ是モ廢ス、

菖蒲酒

〔古今要覽稿時令〕あやめざけ（菖蒲酒華酒）　菖蒲酒は、あやめの根の二寸九節のものを取てこまかにきり、縷のごとくになして、さけに汎て五月五日に飲ば、瘟氣或は蛇蟲の毒をさくるよし、和漢と